

いじめについて考える

ある雑誌にこんな記事がありました。タイトルはく「不機嫌な教室」統計と理論で読み解く「いじめ対策」荻上チキ氏＞です。

多くの子どもは、「いじめが悪いことである」ことを知っています。いじめが悪だと分かっているが、「あの先生の授業中なら大丈夫だろう」「あいつが相手ならセーフだろう」「誰も見ていないならセーフだろう」「楽しいからセーフだろう」「笑っているからセーフだろう」「みんなでやっているからセーフだろう」といった特定条件下では、集団の理屈によって暴力や陰口が「セーフ」なものとしてされてしまう。・・・中略・・・「いじめ」という括りにせず、仲間はずれ、無視、陰口といった行為に、着目すれば小学校4年生から中学3年生の6年間で9割の児童が加害も被害も体験しています。（日本教育政策研究所調査）つまり、学校には「いじめ未満のトラブル」は蔓延しているわけです。他方でそれらが継続的に特定の児童に向けられ、本人がストレスを感じることで、いじめとしてエスカレートしていくという構図も見逃せません。・・・中略・・・学校内の些細なトラブルは誰にでも起こりうる。些細なトラブルが放置されると、それがエスカレートし、どんどんいじめが成長していく。いじめは、環境によって育てられる生き物です。



本校でも色々な学年で、色々なことが起こっています。「特定の誰かが使っていた水道は使わない」とか、「特定の誰かが触ったらタッチ回する」とか、「お菓子やジュースをおごらせた」とか「SNS関係のトラブル（生徒指導便りでもお知らせしました）」とか。色々話を聞いていくと、「これくらい、いいと思った。」「なんか、むしゃくしゃしてた。」「いかんと思うけれど、みんなと違う意見が言いにくい。」「『やめたほうがいい』と言うと、自分が外されそうな気がして勇気がでない。」「されてても笑っているから、いやだと思っていることに気付かなかった。」「自分はそのグループじゃなくて、うすうす気付いていたけど、自分が言わなくていいかなと思っていた。」等々の言葉が出てきます。よく言われる「いじり」というのも問題ですね。

自分がされる側だったら、どんな気持ちになるでしょう。ご自分の子どもさんがされる側だったら、どんな気持ちになるでしょう。想像してみましょう。思いを馳せてみましょう。みんなで考えましょう。



10月には次の二つの集会があります。両方とも土曜日の開催ですが4年生以上にその参加申し込み書（保護者承諾書）が三連休明けに配られます。

10月13日（土）部落差別をはじめあらゆる差別をなくす「熊本県人権子ども集会」 於：パークドーム熊本

10月27日（土）部落差別をはじめあらゆる差別をなくす大津町児童生徒集会 於：大津北中学校体育館

子どもたちは学校で、いじめや差別のない学校や社会になるよう、たくさんの勉強をしています。大津町の児童生徒集会では、今年度は美咲野小の6年生と人権委員会の子どもたちが発表します。たくさんの子どもたちが参加してくれることを楽しみにしています。

11月21日（水）には本校で人権教育の公開授業研究会も行います。



小さな心配りと正直に伝えてほしいこと

右の写真は、9月10日（月）美咲野小の体育館のトイレに置いてあったラッピングされたトイレトペーパーです。本校の体育館を借用した、合志中学校女子バレーボール部と熊本市立二岡中学校女子バレーボール部からのお礼のトイレトペーパーです。「今日は、体育館を使わせていただいていたありがとうございます。」というメッセージ付きでした。合志中と二岡中には、このことを電話で伝えました。とても喜んでおられました。



左の写真は、プールと体育館の間の塀（一番東側）です。9月2日の作業の日に気付きました。よく見ると、ボールの跡があります。あの辺でボールを投げて（またはボールを当てて）遊んだ人がいて、割れたのだと思います。破片が重ねて置いてありました。全学級に担任から聞いてもらいましたが分かりません。割れたことは仕方ないにしても、申し出てほしいものです。とても残念なできごとでした。



美咲野小だより

9月

NO.9
H30. 9. 14
大津町立
美咲野小学校
文責：草場ルミ子

楚喬亭の

九月十二日、4年生の社会の学習に、大津警察署から2名来ていただきました。本物のパトカーに乗って。前日の学年主任会の時、4年主任の福田由美子先生から、「パトカーで来てもらうようお願いしていますので、びっくりにしないでください。」との連絡がありました。（折しもその日は不審者対応避難訓練の日。）4年生は最後に職員室の前で、本物のパトカーを間近に見せてもらいました。赤灯をつけてもらったり、サイレンを鳴らしてもらったり。パトカーの操作のおまわりさんが、マイクで「前の車、止まって下さい。」と言われると、周りで聞いている先生たちも運転するように。なつた、この感じ分かるよ！なんて思いました。2階の教室からは、♪歌えばんばん♪の歌声。職員室前のペチニアの花柄を摘みながら、（私はいつも時間に追われているので、一度に複数のことをしないと、時間がもったいない気持ちになります）子どもたちがいろいろな学びをしている様子を実感し、幸せな気分になりました。